

府政防第734号
令和3年6月16日

各都道府県 防災担当主管部（局）長 殿

内閣府政策統括官（防災担当）付
参事官（地方・訓練担当）
（ 公 印 省 略 ）

新型コロナウイルス感染症対策に配慮した避難所開設・運営訓練事例集について

新型コロナウイルス感染症の現下の状況を踏まえ、災害が発生し避難所を開設する場合に備えた「新型コロナウイルス感染症対策に配慮した避難所開設・運営訓練ガイドライン」を発出し、避難所運営訓練の積極的な実施により、避難所運営に際しての手順や課題の確認等につとめることが望ましいことを周知してきたところです。

今般、地方公共団体において、避難所開設・運営訓練の検討の参考とするため、事例集を作成しましたので、送付します。

なお、本事例集は、今後新たな事例を追加して随時更新してまいりたいと考えております。新型コロナウイルス感染症に配慮した避難所開設・運営訓練を実施された際は、内閣府（防災担当）地方・訓練担当まで訓練に関する資料をお寄せいただければ幸いです。

貴都道府県内の市区町村防災担当主管部局に対しても、その旨周知していただきますようお願いいたします。本件通知は、地方自治法（昭和22年法律第67号）第245条の4第1項の規定に基づく技術的助言であることを申し添えます。

<連絡先>

内閣府政策統括官（防災担当）付参事官（地方・訓練担当）付
長谷川、小寺
TEL 03-3503-2239（直通）

新型コロナウイルス感染症対策に配慮した 避難所開設・運営訓練事例集

令和3年6月
内閣府（防災担当）地方・訓練担当

新型コロナウイルス感染症対策に配慮した避難所開設・運営訓練事例集 はじめに

新型コロナウイルス感染症の現下の状況を踏まえ、災害が発生し避難所を開設する場合には、感染症対策について万全を期すことが重要です。

そのため内閣府では、令和2年度に「避難所における新型コロナウイルス感染症への対応に関するQ & A」や「新型コロナウイルス感染症対策に配慮した避難所開設・運営訓練ガイドライン」を関係省庁と連名で発出し、感染症対策の観点から避難所で実施すべき事項について周知するとともに、手順や役割分担、課題等を確認するため、市町村の防災部局と福祉部局や保健所などの関係機関が連携して避難所開設運営訓練を積極的に実施するよう促しているところです。

令和2年度において各地方公共団体での避難所開設運営訓練の実施事例が見られますが、多くの地方公共団体で、訓練の検討にあたり、なお悩みを抱えている状況と考えられます。

そこで、避難所開設運営訓練の企画の一助とするため、今般、内閣府では避難所開設運営訓練の事例集を作成し発出することとしました。

事例集は、訓練方法を工夫して感染症対策について行政職員等のスキルアップを図った訓練、デジタル技術等を活用して効率的な感染症対策を進めた訓練、住民組織や関係機関と連携して住民への感染症対策の普及を図った訓練など、特色のある項目別にまとめており、1事例ごとに1枚のシートに整理して、他地方公共団体が訓練の企画上参考となるポイント等を分かりやすく示しました。

各地方公共団体においては、当該事例集も参考にしつつ、それぞれの実情に応じて避難所開設運営訓練を企画し、実施することで、防災力の向上を図っていただくことを期待いたします。

なお、今後とも、感染症対策に配慮した避難所開設運営訓練の事例の共有による、各地方公共団体の防災力の向上を図る観点から、避難所開設・運営訓練を実施された際は、訓練内容等を内閣府（防災）地方・訓練までご連絡いただけるようお願いいたします。

新型コロナウイルス感染症対策に配慮した避難所開設・運営訓練事例集

目次

訓練方法を工夫して感染症対策について行政職員等のスキルアップを図った訓練

➤ 埼玉県川口市	座学と実動訓練を組み合わせた訓練	1
➤ 神奈川県相模原市	市職員に対し座学から訓練まで継続的に知識技能の向上定着を図る取り組み	2
➤ 茨城県常陸大宮市	県と市が連携して避難者の対応に特化して行った訓練	3
➤ 和歌山県海南市	「津波防災の日」における県と市が連携した総合的な防災訓練	4
➤ 東京都目黒区	動画撮影した行政職員向け訓練を地域に展開する取り組み	5
➤ 秋田県由利本荘市	市職員が段ボールベッドの設置・宿泊を行った訓練	6
➤ 千葉県銚子市	ソーシャルディスタンスを意識した避難と避難所開設を一連で行った訓練	7

デジタル技術等を活用して効率的な感染症対策を進めた訓練

➤ 埼玉県上尾市	ドローンを活用し訓練場所の分散化を図った訓練	8
➤ 埼玉県志木市	「避難所混雑状況等発信システム」を活用した訓練	9
➤ 静岡県	防災アプリ「避難所運営支援機能」を活用した訓練	10
➤ 千葉県船橋市	「避難所運営アクションシート」を活用した訓練	11
➤ 岩手県大槌町	町内全戸へ健康チェック表等を配布した取り組み	12

住民組織や関係機関と連携して住民への感染症対策の普及を図った訓練

➤ 愛媛県伊予市	愛媛県総合防災訓練における様々な関係機関と連携した訓練	13
➤ 石川県金沢市	自主防災組織と共同による福祉避難所開設・運営訓練	14
➤ 神奈川県藤沢市	地区防災協議会主催の避難所開設・運営訓練	15
➤ 新潟県村上市	市内全域を対象として自治会単位で行った訓練	16
➤ 宮城県気仙沼市	自主防災組織や中学生が主体の訓練	17
➤ 徳島県	自主防災組織のリーダー等を対象とした訓練	18
➤ 神奈川県横須賀市	自衛隊による感染症対策の講話を取り入れた訓練	19
➤ 滋賀県東近江市	日本赤十字社と連携した訓練	20
➤ 青森県五戸町	訓練を通じ医療・福祉系学生の意見収集を図った訓練	21

座学と実動訓練を組み合わせた訓練

ポイント

- 感染症対策に配慮した避難所開設・運営を初めて行うため、座学で基本事項を確認した後に実動訓練を行っています
- 新型コロナウイルス感染症対策として訓練参加人数を絞ったため、後日、ビデオ撮影した訓練の様子を公開し、参加者以外も避難所の新型コロナウイルス感染症対策を学習しています

訓練日時：令和2年10月25日（日）10:00～12:00

実施場所：十二月田中学校・十二月田小学校

参加者：各町会自治会95人・学校職員26人・避難所担当職員31人

訓練概要：座学:新型コロナウイルス感染症対策での避難所運営のポイント
 避難所開設・運営訓練 ①避難者受付時の感染症対策
 ②一般避難者用エリア受付要領と区画割り
 ③発熱者等専用エリア受付要領と区画割り



避難者受付時の感染症対策



一般避難者用エリア区画割り

特徴

- ✓ 座学で基本事項を確認した後、実動訓練で体験するという構成
- ✓ 訓練をビデオ撮影し視聴者用に編集し後日公開

教訓と課題

- ✓ 受付時に1つの机で検温⇒健康チェック⇒手指消毒を実施すると、動線がわかりやすいという長所があるが、「密」になるとともに時間がかかるという短所も明らかになった
- ✓ 感染症対策は運営側だけでなく、避難者の協力が不可欠
- ✓ 保健部門の職員以外でも発熱者等への対応が必要なため、運営側の感染対策についての訓練が必要
- ✓ 感染症対策を徹底するための人員確保

今後の展開

- ✓ 基本的な感染症対策を参考に各避難所の特徴や状況にあわせ応用していくことが必要（避難所開設時の感染症対策の動画等を作成してHPで公開予定）

市職員に対し座学から訓練まで継続的に知識技能の向上定着を図る取り組み

ポイント

- ▶ 新型コロナウイルス感染症対策について座学で学び、個人用防護具装着訓練などの実技訓練を行い、感染症対策に配慮した避難所開設・運営訓練を行っています。
- ▶ それぞれの訓練について、日時を分けて行うことにより、避難所担当職員の知識技能の向上・定着を図っています。

訓練日時：令和2年11月1日（日）8:00～12:00

実施場所：指定避難所3か所

参加者：市職員（避難所担当職員）：計200名

訓練概要：避難所レイアウト作成訓練
 避難者受付・誘導訓練
 個人用防護具装着訓練など



個人用防護具装着の様子



間仕切り設置の様子



パーティション設置の様子



避難者スペース配置状況

特徴

- ✓ 座学研修（8月）→実技研修（8月）→避難所開設・運営訓練（11月）の順で継続的に職員の知識・技能の向上・定着を図った

教訓と課題

- ✓ 避難所の開設にあたって想定よりも多くの人手が必要となることが明らかとなった
- ✓ 感染症対策物品の充実
- ✓ 体調不良者や要配慮者の動線確保

今後の展開

- ✓ 職員だけでなく住民を交えた避難所開設・運営訓練の実施

県と市が連携して避難者の対応に特化して行った訓練

ポイント

- 避難所として、2つの公共施設を「一般用避難所」と「体調不良者用避難所」として準備し、受付で体調別に避難所を割り振る手順などを確認しています
- 住民に参加してもらい、住民目線の意見を取り入れています
- 他自治体の職員が訓練に参加し、情報共有を行っています

訓練日時：令和2年7月10日（金）13:05～15:30

実施場所：おおみやコミュニティセンター（一般避難所）
大宮公民館（体調不良者用避難所）

参加者：市職員42名、県職員8名、住民11名
研修20名（警察，他自治体）、メディア8名

訓練概要：受付・体調確認後、結果に応じた案内・誘導訓練



避難者（住民）受入れ



一般避難所の様子



発熱者等専用避難所

特徴

- ✓ 避難者の対応要領（各避難所における避難者の体調チェック、受付、避難者受付フローによる避難スペースへの案内等）に特化した訓練
- ✓ 住民が参加したことで、住民の意見を反映した検証ができた
- ✓ 一般用避難所と体調不良者用避難所を別個の施設に設置し、避難者の感染防止及び不安解消を図った

教訓と課題

- ✓ 防護関連資器材、避難所レイアウトの事前準備の必要性を認識
- ✓ 収容可能人数の減少により、分散避難の必要性を認識
- ✓ 避難所運営職員や保健師等の不足

今後の展開

- ✓ 県と連携した訓練の実施
- ✓ 不足する防護関連資器材の購入
- ✓ 分散避難の広報や自助・共助の促進

「津波防災の日」における県と市が連携した総合的な防災訓練

ポイント

- 「津波防災の日」を契機とする総合的な訓練の中で、県と市が連携し、避難所運営における課題等を具体的に確認しています
- PPE（個人用防護具）研修や感染症対策に有効なパーティション設置訓練などを行っています
- 発災直後、発災24時間後、発災3日後の3部構成の実際を見据えた訓練を行っています

訓練日時：令和2年11月15日（日）9:00～12:00

実施場所：和歌山県立海南高等学校

参加者：海南市職員96人、和歌山県職員6人

訓練概要：PPE研修、避難者受入訓練、情報通信訓練、生活ルール策定訓練
物資受入・配布訓練、食料配布訓練、資機材設置訓練
保健・衛生・救護訓練、ペット同行避難者への対応訓練
在宅避難者への対応訓練、車両避難者への対応訓練 等



医療救護所設営



PPE研修の様子



車両避難



パーティション設置の様子

特徴

- ✓ 発災直後（フェーズⅠ）、発災24時間後（フェーズⅡ）、発災3日後（フェーズⅢ）の3部構成
- ✓ 在宅避難者宅を保健師チームが訪問し、健康状態の確認を実施
- ✓ 医療救護所の設置訓練

教訓と課題

- ✓ パーティションは、プライバシー保護としても必要
- ✓ 避難所で濃厚接触者を発生させないようなルール設定と環境整備が重要
- ✓ 自主防災組織、自治会、住民と行政の役割分担を検討すべき
- ✓ ガウンが必要な場面と不要な場面を予め決めた方が良い

今後の展開

- ✓ すべての避難所に保健師を配置することはできないので、次回の訓練までに感染症対策マニュアルを作成し、保健師以外の職員でも対応できるようにする予定

動画撮影した行政職員向け訓練を地域に展開する取り組み

ポイント

- フェイスガード、屋内型テント、段ボールベッドなど感染症対策として新たに配備した資機材を用いてデモンストレーションを行っています
- コロナ禍の避難所運営を想定し、参加者の検温、手指消毒を行っています
- デモンストレーションの様子を動画撮影し、今後の地域の防災訓練などで活用予定となっています

訓練日時：令和2年9月3日（木）13:30～16:30

実施場所：目黒区総合庁舎2階 大会議室

参加者：区職員

訓練概要：避難所用屋内型テント、段ボールベッド等の資機材の展示・組立デモンストレーション、個人用防護具の着装



資機材組立動画の視聴



避難者受付の様子



避難所用屋内型テントの説明

特徴

- ✓ フェイスガードや屋内型テント・段ボールベッドなど新たに配備した資機材を用いてデモンストレーションをすることにより新たな避難所運営のあり方を職員間で共有
- ✓ デモンストレーションの様子を動画撮影し、今後の地域の防災訓練などで活用

教訓と課題

- ✓ 避難所によっては、専用スペースや別の動線確保が難しい
- ✓ 避難所運営に携わる住民の感染症に対する不安感の解消

今後の展開

- ✓ 感染者等専用施設（民間も含む）の確保
- ✓ 防護服など感染症対策物品の充実

市職員が段ボールベッドの設置・宿泊を行った訓練

ポイント

- 避難所の三密対策として有効なパーティションや段ボールベッドの設置について、市の避難所開設要員が体験し、その内容を確認しています
- 設置した段ボールベッドに宿泊し夜間における避難所生活の課題や改善点の抽出等を行っています
- 指定管理者も訓練に参加し、訓練の結果を協定に反映させています

訓練日時：令和2年7月3日（金）13:30～4日（土）6:30

実施場所：由利本荘総合防災公園（ナイスアリーナ）

参加者：防災担当、施設管理担当職員、指定管理者 17名

訓練概要：避難所開設運営訓練（日没後開設、実際に宿泊）
市役所本庁災害対策本部（仮）との情報伝達



夜間受付訓練



宿泊体験

特徴

- ✓ 夜間に避難所を開設し、避難者を受付・誘導
- ✓ 実際に宿泊して、避難所生活の課題や改善点等を抽出
- ✓ 指定管理者に参加してもらい、訓練結果を協定内容に反映

教訓と課題

- ✓ 避難所内設備及び備品の情報共有
- ✓ 避難所開設・運営訓練における宿泊体験は段ボールベッド等の安全性・快適性及び生活ルールの検証に有効
- ✓ パーティションや段ボールベッドなど多数設置するものは、誰でも組み立てられるよう写真付きのマニュアルなどがあると良い
- ✓ 施設側と自主防災組織との関係推進
- ✓ 定期的な訓練の実施

今後の展開

- ✓ 開館時の施設来館者を対象とした訓練
- ✓ 自主防災組織と連携した訓練
- ✓ 冬季積雪下での避難所開設・運営訓練

ソーシャルディスタンスを意識した避難と避難所開設を一連で行った訓練

ポイント

- 災害（津波）発生後、避難場所に集合し、そこから避難所にソーシャルディスタンスを意識しながら避難者を誘導して避難所を開設するまでの一連の手続きを確認しています
- 感染症対策として、発熱者対応者を専任として配置し、隔離及び非接触にて対応することなどを訓練しています

訓練日時：令和2年11月4日（火）10:00～11:30

実施場所：白幡神社（避難場所）

銚子市勤労コミュニティセンター（仮想避難所）

参加者：市職員、警察、ガス組合、消防団、住民等：計130名

訓練概要：避難場所への避難、避難場所から避難所への誘導
避難所での受付～誘導



消防団員による負傷者運び出しの様子



避難所での様子



町内会等による避難所への誘導の様子

特徴

- ✓ 避難場所から避難所への誘導について、町内会・消防団・警察署により、避難者誘導を実施
- ✓ 避難場所には発熱者や妊婦、寝たきりの人に扮した住民もいて、消防団員らが介助
- ✓ 発熱者対応者を1名専任とし、対応者も隔離・非接触を心掛けた

教訓と課題

- ✓ コロナ禍での避難所開設は、感染症対策用品や受付の増設によって、人的にも時間的にも負担が大きい
- ✓ 運営人員の確保（感染症対策により運営に必要な人員が増加）
- ✓ 感染症対策物品の充実
- ✓ 体調不良者や要配慮者の動線確保

今後の展開

- ✓ 避難者の動線確保や感染症対策用品の準備などをスムーズに行うために継続的な訓練を行う

ドローンを活用し訓練場所の分散化を図った訓練

ポイント

- 災害対策本部事務局と避難所を I P 無線・ドローン等を使用し、中継することで訓練場所の分散化を実現しています
- あらかじめ準備している感染症対策を盛り込んだ「避難所開設キット」を活用して訓練しており、実際の災害時に速やかに避難所が開設できるよう取り組まれています

訓練日時：令和2年8月23日

実施場所：市役所、指定避難所42箇所

参加者：市職員、自主防災組織、防災士協議会等

訓練概要：避難所開設キット（感染症対策を含む）を使用した避難所開設訓練、I P 無線・ドローン等を使用した本部との連携訓練
要配慮者の移送（スクリーニング）訓練
外国人対応訓練（通訳翻訳ボランティア訓練）



避難所開設キット



本部運営状況及びドローンのリアルタイム映像



外国人対応

避難所運営

特徴

- ✓ 「避難所開設キット」(※)を使用した訓練
※避難所開設に必要な手順書や掲示物、様式をコンテナに収めたもの
- ✓ ドローンを使用して避難所映像を災対本部へ伝送

教訓と課題

- ✓ 受付時の記入項目の精査、記入スペースの設置
- ✓ パーティションや段ボールベットの備蓄スペース不足
- ✓ ドローン映像はリアルタイムで確認でき有効であるが経費が掛かる

今後の展開

- ✓ 今回の訓練で修正された手順書に沿った訓練を実施予定
- ✓ 全指定避難所に避難所開設キットを配備して訓練実施予定

「避難所混雑状況等発信システム」を活用した訓練

ポイント

- 「避難所混雑状況等発信システム」を活用し、Web上で避難所の混雑状況が分かるようにしています
- 避難者同士の間隔保持の方法としてパーティションの設置を訓練したほか、パーティションが不足した場合の代替としてマルチシートの活用についても訓練しています

訓練日時：令和2年7月29日（水）13:30～15:30

実施場所：志木市立志木小学校

参加者：町内会、民生委員・児童委員、志木市職員：計76名

訓練概要：訓練参加者健康状態確認訓練、避難者受付割振訓練
資機材設置・避難所環境整備訓練、防護服等着用訓練



パーティション設置

マルチシートの活用



避難所受付の様子



防護服等着用の様子



混雑状況システム

特徴

- ✓ WEB上で分かる避難所混雑状況等発信システムを導入した
- ✓ 地域住民等と連携してパーティション設置や、代替品としてマルチシートを使用した間仕切り等作成訓練
- ✓ 濃厚接触者等の対応として、防護服着用訓練
- ✓ 新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用し、パーティション等を備蓄した
- ✓ 避難所開設職員を増員、指定緊急避難場所の増設や民間施設（ホテル）等との災害時応援協定を締結した

教訓と課題

- ✓ コロナ禍における指定緊急避難場所の不足
- ✓ 感染症対策物品の不足
- ✓ 第1受付第2受付において、対応方法が不明確だったことから、受付割振におけるマニュアルの整備
- ✓ 避難者の分散避難の推奨

今後の展開

- ✓ 受付割振におけるマニュアルを整備したので、今後訓練等を行いマニュアルの検証を行う

防災アプリ「避難所運営支援機能」を活用した訓練

ポイント

- 県が構築した防災アプリの「避難所運営支援機能」を活用し、受付で避難者情報を瞬時に登録することによる3密回避に取り組んでいるほか、スマートフォンを通じ、避難者への情報提供や体調管理を行うなど、非接触での避難所運営を行っています
- 避難所運営者役と避難者役の役割を交代することにより、参加者全員が同じ訓練を受けられるようにしています

訓練日時：令和2年11月30日（月）9:30～12:00
実施場所：湖西市鷺津防災コミュニティーセンター
参加者：湖西市防災指導員、湖西市職員等：計30名
訓練概要：避難所支援機能説明、避難者登録機能実践
 避難所受付実践、情報共有機能実践



スマートフォンによる避難所QRコード表示



QRコードを読み込みチェックイン



体調報告を更新

特徴

- ✓ 避難所受付でQRコードを読み込み、避難者情報を瞬時に登録することで、受付での密を回避
- ✓ 避難者へのスマートフォンを介した情報提供や体調管理等、非接触での避難所運営

教訓と課題

- ✓ 高齢者のスマートフォン利用の普及

今後の展開

- ✓ 県内市町への機能紹介と操作説明会を順次開催中であり、令和3年6月より、体制の整った市町から順次本格運用開始
- ✓ 避難所運営支援機能の利用説明の充実（説明動画等）
- ✓ 通信環境の充実（避難所となる施設へのWi-Fi等の普及促進等）

「避難所運営アクションシート」を活用した訓練

ポイント

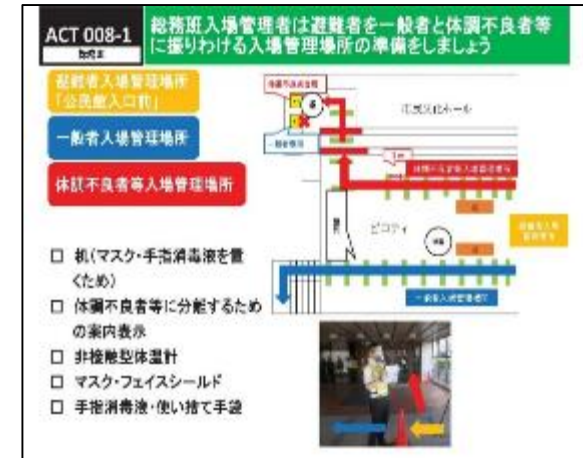
- 避難所入口に一般者と体調不良者を分ける「事前受付」を設置しています
- 感染症対策を踏まえた避難所運営の手順をわかりやすく説明した「避難所運営アクションシート」を作成し、YouTubeや市公式アプリに掲載し、有事の際にもWebから確認できる環境を整えています
- 感染症対策に重要な動線を意識して訓練を行っています

訓練日時：①令和2年8月18日（火）15:00～17:15
②令和2年11月29日（日）※船橋市総合防災訓練

実施場所：①船橋市中央公民館
②市内市立小中学校、特別支援学校高根台校舎（82箇所）

参加者：①危機管理課職員、公民館職員等：計75名
②市職員、学校職員等：計942名

訓練概要：①避難所受付、②一般者用居住場所、③体調不良者の居住場所、それぞれの場所で感染症対策であるPPEやゾーニング・動線を意識して、一連の動きを確認。総合防災訓練では、避難所内のレイアウトを敷地配置図等へ落とし込みを行った。



避難所運営アクションシート



避難所受付の様子



体調不良者の対応準備

特徴

- ✓ 避難所運営アクションシート（※）を活用
※写真等を交え、感染症対策を踏まえた避難所運営の手順をわかりやすく説明したもの
- ✓ 避難所運営アクションシートについては、YouTubeや船橋市公式アプリ「ふなっぷ」に掲載

教訓と課題

- ✓ ゾーニング等で使用する場所が増えたことによって、配置する人員も増加
- ✓ 避難所内での一定の離隔確保により避難所の収容人数が減少したことによって、在宅避難の検討が必要

今後の展開

- ✓ 職員だけでなく市民を交えた避難所開設・運営訓練の実施

防災啓発動画
(船橋市HP)

町内全戸へ健康チェック表等を配布した取り組み

ポイント

- 町内全戸に「健康チェック表」と「避難者ガイド」を配布し、コロナ禍における住民の防災意識を高めています
- 新型コロナウイルス対策を踏まえ、避難所受付や避難所内パーティションの設置などについて整備した「避難所運営マニュアル（案）」の検証に重点を置いた訓練を実施しています

訓練日時：令和2年7月16日（木）13:00～

実施場所：大槌町中央公民館、城山公園体育館

参加者：大槌町職員19名

訓練概要：避難所受付、避難所内間仕切り（ファミールーム）設置
（大槌町避難所運営マニュアル（案）の検証）



間仕切り等設置

避難者ガイド



避難所運営職員研修会



台風19号大槌川（大ヶロ）

災害時における避難について

町民のみなさまへ

令和2年7月の梅雨前線の影響により九州地方をはじめ甚大な被害を受ける中、7月28日から29日朝にかけて山形県を流れる最上川では、5カ所で氾濫が発生して甚大な被害を受けました。ここ大槌町も例外ではありません。昨年の**台風19号**では、**大槌川が決壊寸前まで追い込まれました。**

これから台風シーズンがやってきますが、町としては、**新型コロナウイルス対策を踏まえた避難所運営**について検討し、先日職員による研修会を行いました。そこで出た意見を参考に新たな避難所運営マニュアルを整備したところですが、新しい避難所運営マニュアルでは、**町民の皆様のご理解とご協力が必要**となります。そのため、このパンフレットには、町民のみなさまに行っていただきたいことも記載してありますのでご確認くださいませようお願いいたします。

避難者ガイド作成：大槌町危機管理室

大槌町避難者ガイド

特徴

- ✓ 大槌町避難所運営マニュアル（案）の検証に重点を置いた訓練
- ✓ 健康チェック表と避難者ガイドを全戸配布

教訓と課題

- ✓ 避難者ガイドを全戸に配布したことによって、住民の防災意識を高めることができた
- ✓ 避難所開設・運営訓練に関わる職員には訓練（研修）が必要

今後の展開

- ✓ 人事異動等に配慮し、新年度早々に職員を対象とした避難所開設・運営研修を実施予定
- ✓ 今後の訓練や実践での課題を踏まえ、適宜マニュアルの改善を図っていく

愛媛県総合防災訓練における様々な関係機関と連携した訓練

ポイント

- 愛媛県総合防災訓練時に県職員、近隣市町職員、D-PAT、自主防災会等の関係機関と連携し、段ボールベッド、パーティション、室内用テント等を使用し、新型コロナウイルス感染症対策に配慮した避難所開設・運営、ペット同行避難、避難者（車両避難を含む）に対する問診などを行っています

訓練日時：令和2年8月29日（日）8:30～11:30

参加者：伊予市職員(42名)、自主防災会連絡協議会(27名)、県職員、八幡浜市・砥部町・久万高原町職員、愛媛県要配慮者支援チーム、D-PATなど：計80名

訓練概要：避難所開設訓練・避難者受付訓練・保健師による問診
避難所生活環境作成訓練
（段ボールパーティション・室内用テント）
避難生活におけるペットの取り扱い説明



自主防災会による段ボールパーティション作成



ペット同行避難



保健師による問診



受付の様子



要配慮者用室内テント

特徴

- ✓ 市保健師、県・近隣市町応援保健師、D-PAT（災害派遣精神医療チーム）が連携した避難者への問診
- ✓ 新型コロナウイルス感染症対策をとり、県、近隣市町、自主防災会などの関係機関が連携した避難所開設・運営

教訓と課題

- ✓ 受付に避難者が団体で来た場合にソーシャルディスタンスの確保ができていないときがあった
- ✓ 要配慮者スペースに室内用テントを使用したため、中はかなり暑かったため、熱中症対策の検討が必要
- ✓ 段ボールパーティション等の設置に手間がかかる
- ✓ 大規模災害を想定し自主防災会中心の避難所運営の必要性

今後の展開

- ✓ 訓練の教訓を踏まえ、設置が簡単な備蓄資機材の購入への仕様変更を検討
- ✓ 夏場の熱中症対策の検討

自主防災組織と共同による福祉避難所開設・運営訓練

ポイント

- 新型コロナウイルス感染症対策に配慮した福祉避難所の開設・運営訓練を行っています
- 受付で検温を行い、平熱者と発熱者の割振を行っています
- 施設管理者（福祉施設職員）、自主防災組織、市職員等が共同で訓練に取り組むことで、コロナ禍での手順・課題等を具体的に洗い出しています

訓練日時：令和2年11月22日（日）13:30～15:15

実施場所：老人福祉センター鶴寿園

参加者：自主防災組織、鶴寿園職員、災害支援ナース
市職員：計31名

訓練概要：福祉避難所の開設訓練
要配慮者避難スペース配置訓練
避難場所から避難所まで車いすを使用した移動訓練
福祉避難所の運営訓練
防災士による講義、DVD視聴等



避難所移動訓練



防災士による講義



避難者割振



災害支援ナースの巡回



避難者のトリアージ

特徴

- ✓ 高齢者や障害のある方等の配慮が必要な方を受け入れる福祉避難所の訓練
- ✓ 避難場所から避難所まで、車いすなどを使った移動訓練
- ✓ 避難者のトリアージ（重症度に基づいて選定）訓練
- ✓ 災害支援ナースの巡回による健康状態の確認

教訓と課題

- ✓ 避難場所から避難所への誘導については、体制やルートなどを地元の自主防災組織と事前に調整しておくことが重要
- ✓ 受付で健康チェックリストを記入することにより混雑
- ✓ 受付の流れや動線の精査

今後の展開

- ✓ 福祉施設やその他民間協定施設での訓練実施

地区防災協議会主催の避難所開設・運営訓練

ポイント

- 地区防災協議会が主催し、避難空間の確保と設営訓練、体調不良者への対応訓練等を行っています
- 感染防止対策のため、参加人数を例年の10分の1程度としましたが、リアルタイム動画配信やアーカイブ視聴できるようにしています
- 避難所運営を運営委員会（施設管理者、市職員、住民（自主防災組織）等）で運営する方針が明確化されており、これに基づいた準備が積極的に進められています

訓練日時：令和2年11月28日（土）9:30～12:00

実施場所：藤沢市立高砂小学校

参加者：地域住民・地域救護病院・学校職員・市職員等
計73名（例年700名程度）

訓練概要：避難スペースの確保と設営訓練、体調不良者への対応訓練、車両避難・ペットの避難訓練



役員会の様子



ライブ配信



PPE着脱指導



車両避難

特徴

- ✓ 地区防災協議会が主催となって実施
- ✓ 訓練までに役員会（検討会）を10回近く重ね、内閣府の動画等を参考に訓練内容を精査
- ✓ 参加人数を絞ったかわり、SNSなどでリアルタイム配信や事後の閲覧を可能にした

教訓と課題

- ✓ 避難施設の運営は、マニュアルを作成しただけでは、実際の災害発生時に機能しない
- ✓ 感染防護具の着脱についての知識が必要
- ✓ 感染症対策で体育館等の室内での受入人数減少が余儀なくされるため、新たな選択肢として、車両避難等の手法を活用することにより、避難者間の距離や相互の感染予防に有効であることを確認できた

今後の展開

- ✓ 地域救護病院との連携が不可欠
- ✓ 校庭での有効な車両避難の在り方についての検討

市内全域を対象として自治会単位で行った訓練

ポイント

- ▶ 全市民を対象とし、自治会単位で避難訓練を実施しています
- ▶ 市で作成したガイドラインを基に感染症対策に配慮した避難所毎の設置・運営マニュアルを作成し、開設・運営訓練を行っています

訓練日時：令和2年8月30日（日）7:30～10:00

実施場所：村上小学校 他4か所

参加者：自治会、自主防災会、市職員
計9,102名（避難訓練のみの参加者を含む）

訓練概要：自治会単位での避難訓練、避難所開設・運営訓練（コロナ対応の検証）災害対策本部と避難所間でのZOOM交信訓練



感染症対策に関する説明



避難所での検温の様子



避難所受付の様子



避難所レイアウト



フェイスシールド着用の様子

特徴

- ✓ 全市民を対象とした自治会単位での避難訓練
- ✓ 市で作成したガイドラインを基に避難所ごとの設置・運営マニュアルを作成して実施

教訓と課題

- ✓ コロナ対策の物品はある程度準備できたが、避難所運営に係る職員の確保が必要
- ✓ 市民は避難時の感染リスクに不安を感じている
- ✓ 避難所の衛生管理、避難者の健康管理の徹底

今後の展開

- ✓ 避難所の密を避けるために、在宅避難や知人宅への避難など多様な避難に関する住民周知
- ✓ 避難時の感染症対策に関する留意点と具体策の住民周知
- ✓ 避難所の追加に伴う人員体制の整備
- ✓ 次の訓練は出水期前に実施したい

自主防災組織や中学生が主体の訓練

ポイント

- 自主防災組織や地区住民、中学生が主体となり、問診票や体温測定を行う事前受付、専用スペース設置、簡易テントによるパーティションの設置訓練を行っています
- 東日本大震災の経験を踏まえ、自主防災組織等が主導して避難所運営をできるように、訓練や研修等が繰り返されています

訓練日時：令和2年11月15日（日）

実施場所：気仙沼市立面瀬中学校

参加者：面瀬中学校生徒約80名、地区住民20名

訓練概要：事前受付（問診票、体温計測）、専用スペース設置、簡易テントによるパーティション設置



パーティション等設置



体温測定、問診の様子



受付・滞在場所指定訓練の様子



受付・物資提供訓練の様子

特徴

- ✓ 体温測定、問診からの判断、テント設営などを住民や中学生が実施

教訓と課題

- ✓ 問診票で1項目でも該当すれば専用スペースへの避難とすることの疑義
- ✓ 自主防災組織や地区住民が開設した避難所で感染者が発生した場合の責任所在について
- ✓ 専用スペース内に複数の避難者がいる場合、様々な症状の方を同様に扱うことの判断の難しさ
- ✓ 長期避難時には医師や専門機関の診察が行われると想定されるが、台風のような一晩だけの短期避難の対応に諸々の課題

今後の展開

- ✓ 避難所での効率的な受付方法の検討及び次回訓練への反映
- ✓ より多くの住民に対する訓練の実施

自主防災組織のリーダー等を対象とした訓練

ポイント

- 受付、体調不良者専用スペースの設置、段ボールベッド及びパーティションの設営など、感染症対策が必要なシミュレーションを行い、検証結果を冊子と動画にまとめ、公開しています
- この検証を踏まえ、市町村や自主防災組織のリーダー等を対象としたコロナ禍の避難所運営訓練をモデル的に実施し、地域における実践的な取組みにつなげました

訓練日時：令和2年8月31日(月)18:00～9月1日(火)10:30

実施場所：県立防災センター

参加者：市町村担当者、自主防災組織のリーダー等：計25名

訓練概要：講義：「複合災害への備え」

避難所運営訓練：避難所での受付・配食、体調不良者のスペース確保、
段ボールベッド・パーティションなどの設営



シミュレーション動画・冊子
(安心とくしまHP)



受付(県シミュレーション)



体調不良者専用スペース(県シミュレーション)



避難所運営・体験訓練の様子

特徴

- ✓ 「避難所における感染症対策のイメージを持つことが難しい」という市町村の声を受け、県が様々なシミュレーションを実施
- ✓ 検証結果を動画や冊子に取りまとめ、YouTube「徳島県チャンネル」で配信するとともに、市町村や自主防災組織等へ配布
- ✓ シミュレーションの結果を基に、市町村担当者や自主防災組織のリーダー等を対象とした宿泊を伴う訓練をモデル的に実施

教訓と課題

- ✓ 避難所の感染症対策
- ✓ 3密を避けるための段ボールベッドやパーティションの活用方法
- ✓ 感染防止に必要な物資・資機材の十分な備蓄と場所の確保
- ✓ 体調不良者の専用スペース確保
- ✓ 健康管理を担う保健師をはじめ、専門スタッフの確保

今後の展開

- ✓ それぞれの地域における「新型コロナ対策に配慮した避難所運営訓練」の実施を促すと同時に、市町村に対して訓練の実施に要する経費の一部を支援

自衛隊による感染症対策の講話を取り入れた訓練

ポイント

- 入口にサーモグラフィーを設置するとともに非接触型体温計で検温を行っています
- 避難スペースには世帯ごとに使えるテントを張りだし、確認を行っています
- 自衛隊員による仮設の入浴施設と炊き出し施設を展示及び説明を行い、それらに対する質問に答えています

訓練日時：令和2年9月14日（月）10:00～16:00

実施場所：市内体育会館3か所、コミュニティセンター7か所

参加者：市職員(193名)、陸上・海上自衛隊(50名)、警察、消防団
建設業協会：計266名

訓練概要：第1部 避難所参集・開設・運営訓練
福祉避難所設営訓練など
第2部 自衛隊による講話（感染防護対策など）
自衛隊による仮設入浴施設・炊き出し施設等の展示説明



テント設置



自衛隊による仮設入浴施設展示説明



受付の様子

特徴

- ✓ 感染防止対策を取り入れた避難所支援班員による住民の受入
- ✓ 保健師による発熱者または体調不良者の対応
- ✓ 海上自衛隊横須賀地方総監部による、仮設入浴施設及び炊き出し施設の展示説明
- ✓ 「ダイヤモンド・プリンセス号」の生活支援に従事した隊員による講話

教訓と課題

- ✓ 避難者受入時に避難者カード記入場所が混雑
- ✓ 広い避難所は、避難所内での誘導に多くの人手が必要
- ✓ 感染症対策に精通している職員の不足
- ✓ 災害時の自衛隊の活動を知り、さまざまな支援があることがわかった

今後の展開

- ✓ 市民を交えての避難所開設・運営訓練の実施

日本赤十字社と連携した訓練

ポイント

- 医療チームの受入や体調不良者・新型コロナウイルス感染症が疑われる者の搬送訓練を行っています
- ブルーシートを用いてソーシャルディスタンスを保つ取り組みを行っています
- 訓練の様子を映像資料としてまとめ、研修に活用する予定となっています
- 訓練シナリオの詳細を共有せず（ブラインド型）、緊張感のある実働型訓練としています

訓練日時：令和2年9月20日（日）7:00～11:00

実施場所：東近江市総合運動公園布引体育館

参加者：東近江市職員132人他、滋賀県、防災関係機関（日本赤十字社滋賀県支部、各赤十字病院、消防署など）

訓練概要：避難所開設訓練、備蓄物資配送訓練、避難所運営訓練、避難所環境改善訓練、医療支援受入訓練



巡回診療の様子



検温・問診の様子



避難所運営訓練の様子

特徴

- ✓ 3つのフェーズ(初動期・応急期・復旧期)に分けて訓練を実施
- ✓ 詳細なシナリオを共有せず、実施に即した訓練とした
- ✓ 医療チームの受入や体調不良者・感染症が疑われる者の搬送
- ✓ ブルーシートを用いて避難世帯間の間隔を確保
- ✓ 訓練の様子を映像資料としてまとめ、職員や市民の研修などに活用

教訓と課題

- ✓ 感染症対策は、一定規模以上の避難所でなければ実施できない
- ✓ 感染症禍での避難所運営には、平常時以上の人員が必要
- ✓ 深夜帯等の人員が不十分な中での避難所開設方法

今後の展開

- ✓ 指定避難所ではなく、臨時的に開設する避難所等における感染症対策の検討

訓練を通じ医療・福祉系学生の意見収集を図った訓練

ポイント

- 医療・福祉系専門学校で学生達を対象とした避難所開設・運営訓練を実施し、感染症対策等に関する学生達の意見を収集しています
- 避難所運営、避難者、見学者の3チームに分かれ、全員が同じ訓練を受けられるよう工夫しながら実施をしています

訓練日時：令和2年10月20日（火）9:00～12:00

実施場所：東北メディカル学院（専門学校）

参加者：学生62名、五戸町職員4名、五戸消防署10名

訓練概要：避難所HUG訓練、避難所開設訓練、避難者受付訓練、避難者誘導訓練



レイアウト検討
避難所



学生による避難所運営訓練

特徴

- ✓ 福祉・医療を学ぶ学生を対象とした訓練を実施し、将来、医療・福祉従事者として避難所運営への参画を志す機会とした
- ✓ 避難所開設・運営に関する学生目線の意見を収集し、今後の避難所開設・運営に生かす

教訓と課題

- ✓ 災害発生時には指定避難所以外の臨時避難所が必要な場合があり、臨時避難所の開設・運営には若者を含む住民の協力が必要
- ✓ 避難所の施設の規模が異なるため、避難所個別の避難所開設・運営マニュアルの必要性が判明（学生の意見）
- ✓ 避難所での感染症対策に必要な人員及び資機材の確保が必要

今後の展開

- ✓ 毎年、各避難所での感染症対策に配慮した避難所開設・運営訓練を実施する予定
- ✓ 東北メディカル学院等、その他民間施設を臨時避難所として想定し、学生・住民の参加を得た避難所開設・運営訓練を計画